

【今週の注目疾患】

《感染性胃腸炎》

2025年第3週における県内の小児科定点医療機関からの定点当たり報告数は、前週の5.35(人)から増加し、5.84(人)となった(図1)。保健所管内別では、印旛8.81(人)、松戸7.33(人)、千葉市7.11(人)からの報告が多かった(図2)。感染性胃腸炎は通年で発生が見られるが、特に冬季に流行するため、引き続き注意が必要である。

図1 千葉県の流行シーズン別感染性胃腸炎定点当たり報告数

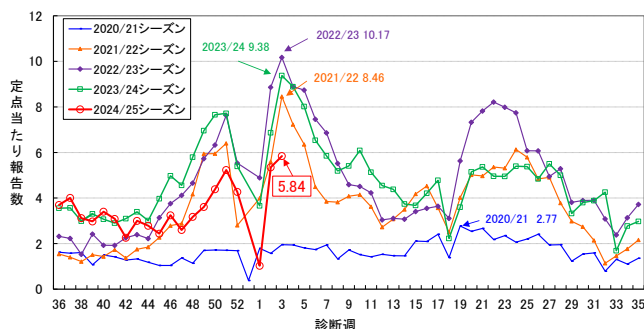
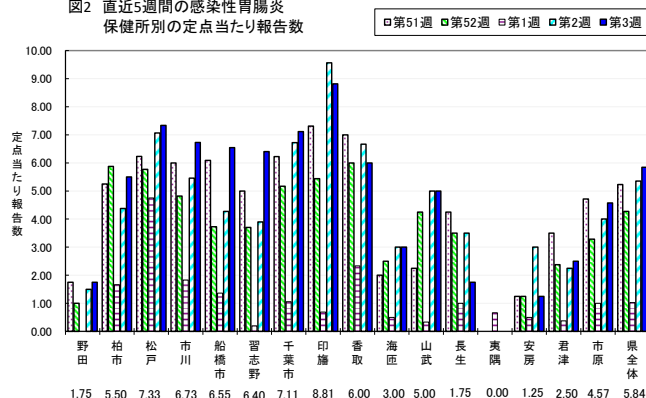


図2 直近5週間の感染性胃腸炎保健所別の定点当たり報告数



感染性胃腸炎は、多種多様な病原体による嘔吐、下痢を主症状とする感染症である。ウイルスが占める割合が多いが、細菌、寄生虫も本疾患の起病病原体である。ウイルス性のもではノロウイルス、サポウイルス、アストロウイルス、ロタウイルス、腸管アデノウイルスなどがみられるが、その中でも、ノロウイルスによる感染性胃腸炎は特に冬季に流行することが知られている。乳幼児や高齢者等では、嘔吐、下痢によって脱水症状になることや、体力を消耗することがある。特に高齢者では嘔吐物による誤嚥性肺炎を起こすこともあり、注意を要する¹⁾。

現在ノロウイルス・サポウイルス・アデノウイルス等による感染性胃腸炎に使用可能なワクチンはない。また、消毒用エタノールのみでは十分な効果を期待できないことから、感染を予防するためには、食品類の十分な加熱、石けんと流水による手洗いの励行、嘔吐物・糞便等の迅速かつ適切な処理（使い捨てのガウン（エプロン）、マスクと手袋を着用する、飛散しないようペーパータオル等で静かにふき取る）及び次亜塩素酸ナトリウム（塩素濃度約200～1000ppm）等による汚染区域の消毒が重要となる。手指に付着しているウイルスを減らす最も有効な方法は、石けんと流水による手洗いである。なお、手袋をしている場合であっても、嘔吐物・糞便等の処理やオムツ交換を行った後は必ず手洗いを行うことが重要である²⁾。

■参考・引用

1) 国立感染症研究所：IDWR 2022年第5号<注目すべき感染症> 感染性胃腸炎

<https://www.niid.go.jp/niid/ja/intestinal-m/intestinal-idwrc.html>

2) 厚生労働省：ノロウイルスに関するQ&A

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/shokuhin/syokuchu/kanren/yobou/040204-1.html

《後天性免疫不全症候群》

2025年第3週に県内医療機関から届出が3例あった（図3）。本年の届出3例のうち、性別は男性2例、女性1例であり、3例とも無症候性キャリアであった。

2024年は、増加に転じた2023年とほぼ同数の35例の届出があった。性別では、男性33例、女性2例、病型では、AIDSが16例、無症候性キャリアが15例であった（図4）。年代は、無症候性キャリアでは15例のうち50代が7例と最も多く、次いで20代及び30代が各3例であり、AIDSでは16例のうち30代が6例と最も多く、次いで50代が5例であった。

図3：2016年から2025年の県内の後天性免疫不全症候群の性別届出数（2025年第3週時点）

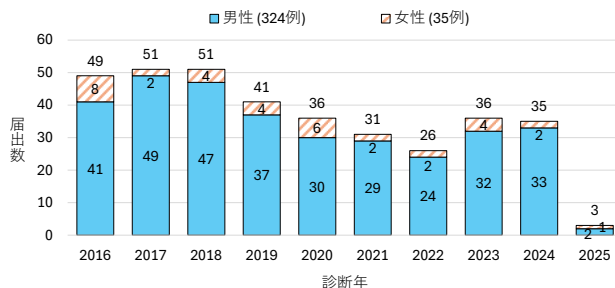
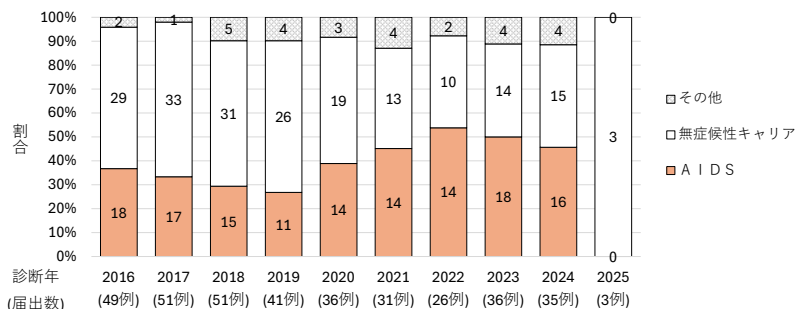


図4：2016年から2025年の県内の後天性免疫不全症候群の病型別届出数・割合（2025年第3週時点）



後天性免疫不全症候群は、ヒト免疫不全ウイルス（human immunodeficiency virus ; HIV）感染によって生じ、適切な治療が施されないと重篤な全身性免疫不全により日和見感染症や悪性腫瘍を引き起こす状態をいう。HIV感染の自然経過は感染初期（急性期）、無症候期、AIDS発症期の3期に分けられ、時間が経過するとともに免疫システムの破壊が進行するため、早期診断、治療がとても重要となる¹⁾。近年、さまざまな研究において、効果的な抗HIV治療を受けて血液中のウイルス量が検出限界値未満（Undetectable）のレベルに抑えられているHIV陽性者からは他の人に伝播しない（Untransmittable）こと（U=U）が分かってきており、早期治療の開始で新たな感染を防止する（Treatment as Prevention; T as P）という考え方が主流になってきている。

千葉県では無料・匿名の検査を実施しています

県では、保健所等において無料・匿名のエイズ等の検査を日中、夜間、休日に実施しています。感染が気になる方や不安なことがある場合には、県ホームページ等でスケジュールをご確認の上、ぜひご活用ください²⁾。

■参考・引用

- 1)国立感染症研究所：AIDS（後天性免疫不全症候群）とは <https://www.niid.go.jp/niid/ja/kansennohanashi/400-aids-intro.html>
- 2)千葉県健康福祉部疾病対策課：千葉県内のエイズ等相談・検査 <https://www.pref.chiba.lg.jp/shippei/kansenshou/aids/soudan.html>